

仏の願い

平成 22 年 西雲寺だより 秋号 (18 号)

報恩講のご案内

10 月 17 日(日) ~ 19 日(火)

17 日 お逮夜(2:00 ~) お初夜(7:00 ~)

18 日 お日中(10:00 ~) お逮夜(1:45 ~) お初夜(7:00 ~)

御伝抄拝読 御伝抄拝読

19 日 お日中(9:30 ~)

法話 福井 野世信水師 (18 日 ~)

18 日はバスが出ますのでご利用下さい。

放送会館前発(8:50) ~ 東別院前 ~ 工大温泉前 ~ 西安居經由
坪谷発(9:00)

常森発(9:00) ~ 鮎川 ~ 小丹生經由

おさそい合わせの上
多数ご参詣下さい



世界共通の仏旗です

宗祖 750 回大遠忌 (来年 5 月)

参拝旅行のご案内

中を開いてご覧下さい

親鸞聖人の生涯

教行信証撰述

常陸の稲田の草庵に居を定められた聖人は土地の人々に念仏のみ教えを説かれると共に、念願であった『教行信証(きょうぎょうしんしょう)』の執筆にとりかかられました。『教行信証』は正しい題名を『顕浄土真実教行証文類(けんじょうどしんじつきょうぎょうしゅうもんるい)』といい、総序、教巻、行巻、信巻、真仏土巻、化身土巻、後序より構成されており、漢文で書かれた大部の論書です。文類とは、経、論、釈より大切な文を集めたものという意味で、随所にご自釈がほどこされています。『教行信証』は真宗の根本聖典であり、完成された年をもつて立教開宗の年とされています。草稿本といわれるものが一応五十二歳の時完成されたといわれていますが、京都へ帰られてからもなお推敲を重ね、七十五歳の頃完成されたものです。草稿本は板東本といわれ、親鸞聖人の一番弟子である性信(しょうしん)の板東(東京)の報恩寺に所蔵されていましたが、現在は東本願寺にあり国宝です。

教行信証撰述の理由

承元(じょうげん)の法難

法然上人の専修(せんじゆ)念仏の吉水の教団は親鸞聖人三十五歳の時、南都北嶺の聖道門仏教より弾圧され、ついに朝廷により教団は解散させられ、七十六歳という高齢

の法然上人は土佐へ、そして親鸞聖人は越後へ流罪になるという承元の法難にあったのです。その直接の原因となったのが、興福寺の学僧貞慶(じょうけい)によって書かれた朝廷に奏上された『興福寺奏状』といわれるものです。この訴えを朝廷が取り上げて承元の法難を引き起こされたのです。そのなかで専修念仏に対して、浄土に暗き失、念仏を誤る失、国土を乱る失等九つの失を挙げて厳しく批判しているのです。

親鸞聖人は承元の法難をひき起した『興福寺奏状』に対して専修念仏の正当性を明らかにする使命を感じられたのです。

撰択集に対する論難

承元の法難によって法然上人は四国に流罪に処せられます。五年ののち、罪許された上人は翌年一月、八十年のご生涯を終えられました。すると間もなく、遺弟隆寛(りゅうかん)が中心となつて『撰択集』が刊行されたのです。『撰択集』は九条兼実公の要請によつて執筆されたものですが、上人は公開することを禁じていました。上人の危惧したとおり『撰択集』が刊行されると直ちに華嚴宗の高僧明恵(みょうえ)上人によつて、聖道門の立場から『撰択集』を徹底的に批判した『摧邪輪(さいじやりん)』が著わされ公にされたのです。その批判の中心は法然上人が『撰択集』の中で菩提心を廃されたこと、これに対して厳しい批判をあげたことです。これを引き金として、法然上人の専修念仏の非難は再び燃えさかり、元仁元年比叡山は再び専修念仏の禁止を朝廷に奏上したのです。親鸞聖人はこの『摧邪

輪』に書かれた『撰択集』の批判に対して、教学的にその正当性を明らかにする責任を強く感ぜられたのです。

『撰択集』の書写

親鸞聖人にとつて吉水時代の出来事の中で最も大きな意味をもつものは『撰択集』の書写を許されたことでした。それは上人三十三歳、法然上人の門下に入つて五年目のことでした。

年を涉り日を涉りて、その教誨(きょうけ)を蒙(かぶ)るの人、千万といえども、親と云い疎と云い、この見写を獲るの徒(ともがら)、はなはだもつて難し。しかるに既に製作を書写し、真影を图画せり。これ専念正業の徳なり、これ決定(けつじょう)往生の徴(しるし)なり、仍(よ)つて悲喜の涙を抑えて由来の縁を註(しる)す。

『教行信証』後序に『撰択集』の書写が親鸞聖人にとつてどれほどの大きな感動であり喜びであつたかを書きしるしておられます。

『撰択集』は法然上人六十六歳の時に完成した浄土宗立教開宗の根本聖典ですが、法然上人は三百八十余人といわれた門徒の中に僅か六人を選んで書写を許したのです。親鸞聖人はその一人に選ばれ、あまつさえ上人の真影(お姿)を图画することさえ許されたのです。当時の習慣としてその著作と肖像の書写を許されるということは、師の教えを正しく継承するという「師資相承(ししそうじょう)」を表す形式です。聖人は『撰択集』にあらわされた専修念仏の教えを正

しく後世に伝えるという大きな使命を与えられたのです。

『教行信証』の内容

往還（おうげん）二回向

親鸞聖人は「教巻」の冒頭に

つつしんで浄土真宗を案ずるに、二種の回向あり。一つには

往相、二つには還相なり。

往相の回向について真実の

教行信証あり

といわれ、浄土真宗の教えは往相、還相の二回向によつて成り立っていると示されています。ここでいう浄土真宗とは真宗教団を指しているのではなく、「浄土の真実の教え」という意味です。往相とは煩惱にまみれた凡夫を救つて穢土（えど）から浄土に往生させ、無上涅槃のさとりを得せしめる如来の本願力の働きの相であり、如来より回向される内容が教、行、信、証の四つより成り立っています。還相とは浄土において仏のさとりを完成させたものが、さとりの必然として大悲を起こし、苦しみ悩む人びとを救う大乘の菩薩としての働きに生き続けることをいいます。この往相、還相とも如来の本願力回向の働きによるものであり、これを浄土真宗といわれたのです。

教巻

それ真実の教を顕さば、すなわち『大無量寿経』これなり。

と示され、釈迦がこの世に出現された本意を説き顕わされた真実の教は『大無量寿経』であるといわれます。その理由として



板東本(国宝)

釈迦、出に出現して道教（釈迦一代の教え）を光闡（こうせん）して群萌（ぐんもう）を拯（すく）い、恵むに真実の利をもつてせんと欲してなり。と『大無量寿経』の序文の文が挙げられ、『大経』には群萌といわれる苦悩の衆生が大悲によつてすくわれ、仏道を歩むことができる如来の本願が説かれていいるから真実の教であると決定されています。

行巻

大行とは、すなわち無碍光如来の名（みな）を称するなり。

と示されます。帰命尽十方無碍光如来（南無阿彌陀仏）と称える称名は、廣大無辺な徳と働きをもつ大行（如来の働き）であり、真実行であるといわれる。それは称名には、私たちの無明煩惱を転じて涅槃の世界に至らしめる徳があるからである。称名は煩惱具足の凡夫の口から出ているが、凡夫の行いではく如来の本願力の働き出たものなのです。行巻の終りに、私たちが朝夕おつとめにつかっている『正信念仏偈』と呼ばれる六十行百二十句の偈文（詩）が置かれている。これは『大無量寿経』に説かれる本願の教えと、それを受け継いだ印度から中国、日本にわたる七高僧の教えを間潔に表わしたものであります。

信巻

それ以みれば、信樂を獲得（ぎやくとく）することは如来撰択の願心より発起す（はつし）とあり、私たちの信心は自分が起すのではなく如来の願心が私に回向されて発起するのであるといわれる。信心は、四十八願の中の十八願に、往生の因として、

至心に信樂して我国に生まれんと欲えと誓われている。このご文を一見すると如来が「至心信樂欲生」の信心を要求しているようにみえるけれども、これは如来の大悲心であり如来の信心であつて、私たちに「まことのこころで信じ浄土に生まれたいと欲え」と南無阿彌陀仏の名号にそのこころをこめて私たちに回向して下さるから、私たちに弥陀を信じ、たのむ心が発起されるのであるといわれる。

証巻

謹んで真実証を顕さば、すなわちこれ利他円満の妙位、無上涅槃の極果なり。（中略）しかるに煩惱成就の凡夫、生死罪濁の群萌、往相回向の心行を獲れば、即の時に大乘正定聚の数に入るなり。正定聚に住すが故に必ず滅度に至る。

と冒頭に示されている。私たちが真実信心によつて往生させていただく世界は無上涅槃界であり、そのお浄土は死んでから往くのではなく、信心が定まった時、往生も定まるのであり、煩惱の生活のままが涅槃の徳に転ぜられていくのです。そして浄土に往生したならば直ちに菩薩の徳と働きがそなわり苦悩の衆生を救う還相の菩薩の働きの世界に出させていただくのです。（住職）

宗祖親鸞聖人750回忌

「来年の話」と
鬼が笑っても
なんのその!

参拝旅行 参加者募集!

申込方法

< 世話方さんがおられる在所の方 >

世話方さんを通じてお申し込み下さい。

< その他の方 >

寺に参詣の折に、各家での報恩講の折に、

もしくはお電話でどうぞ(0776-97-2138 西雲寺)

締め切りを平成23年3月末日といたします。

本山へのご懇志を前もって西雲寺にお納め下さい。

(同じく3月末日まで。当日の混乱を避けるため本山からのお願いです)

おかみそり(帰敬式)について

毎朝7時から行われますので、ご希望の方は1泊コースをお選び下さい。申し込みは西雲寺を通して行いますので、平成23年3月末日までにお知らせ下さい。冥加金は、成人2万円、未成年1万円、小学生以下5千円です。(朝6時からの晨朝に引き続き執り行われますので、ぜひお参り下さるようお願いいたします)

お知らせ

佛光寺派の御遠忌は平成23年5月19日~28日の10日間勤められます。そのうち福井教区には21日が割り当てられました。(滋賀北と合同)その頃は、本願寺派・大谷派の御遠忌に加え、浄土宗の法然上人800回忌とも重なっており、京都市内は大変な混雑が予想されています。

境内にバスを乗り入れられないため、多少歩いていただくこととなります。(200mほど)

畳席のほか、御堂の周囲にイス席が増設されます。

おつとめは行譜正信偈三首引です。

午後の狂言(茂山千五郎一門による)は、佛光寺独自の演目「赤山の女人」(親鸞聖人と法然上人との出会い)と、「延命袋」の2題が演じられます。

50年にいっぺん! みんなでまいろっさの~

(1) 1泊2日コース

行程 5月20日(金) 7時発(各地巡回) 11時京都貴船着・川床で昼食予定
14時本廟参拝・京都観光 18時ホテル着 懇親会 就寝
5月21日(土) おかみそりの方は6時ホテル発、他の方は9時ホテル発
10時御遠忌参拝 12時おときお相伴(箏・尺八演奏)
13時半狂言鑑賞 15時本山発 19時福井着(各地巡回)

費用 3万円(バス代、食事代、宿泊費、本廟への懇志含む
当日で結構です。本山へのご懇志は、
事前に西雲寺までお願いします。



(2) 土曜日日帰りコース

行程 5月21日(土) 6時発(各地巡回) 10時御遠忌参拝
おときお相伴(この日は箏・尺八演奏があります)
13時半狂言鑑賞 15時本山発 19時福井着(各地巡回)

費用 1万円(当日で結構です) 本山へのご懇志は事前に西雲寺までお願いします。

通常は(1)(2)どちらかのコースでお申し込み下さい。

(番外) 日曜日日帰りコース 日曜しか休めない方はこちら!

行程 5月22日(日) 6時発(各地巡回) 御遠忌参拝 おときお相伴
13時半狂言鑑賞(この日は15時より音楽法要とコーラス)
16時本山発 20時福井着(各地巡回)

費用 1万円(当日で結構です) 本山へのご懇志は事前に西雲寺までお願いします。

お知らせ...この便は福井教区の割当外の日にあたりますので、申込者が少ないと
運行できない場合があるかも知れません。ふるってご参詣下さい。

個人で参拝を予定されている方へ

境内には駐停車できませんのでご承知下さい。

個人参拝の場合も、受付混乱回避のため、本山へのご懇志は前もって西雲寺にお届けいただきたいと存じます(本山からのお願いです)。

帰敬式の申し込みは、手続き上、必ず西雲寺を通して下さい。

おとき(お弁当)は、事前に(なるべく3月末日までに)西雲寺よりお申し込みになれば、いただくことができます。

寄稿 おかげさま

家のおばあちゃんが整形外科へ入院していた頃の話です。

二、三日あとに入ってこられたおばあちゃん(酒井さん)がとても念仏者でした。私達二人によく仏さまのお話を聞かせて下さいました。私は好人と一緒になれてよかったと思いました。

酒井さんは愚痴や人の事もしゃべらず、お念仏ばかりのやさしい人でした。隣において貰うだけでも心が暖くなる気持ちでした。法話を聞かせて貰い、有難い日が続きました。ある日、おばあちゃんも元気になって退院出来るようになりました。私は退院は嬉しいのだけれど、酒井さんの事を思うと複雑な気持ちになりました。このまま別れるのでは余り淋しいので手紙を書きました。そしたら返事がきましたので読んで下さい。前書きは略させて貰います。

私はなをる病気ではないので、七日に一度はりハビリに行って居ります。これも如来さまからの早く目ざめよとのごさいそくと、うけとらせてもらいます。

大切なことは、私の人生にまことの道をもとめる心をもつ事です。その時いつでも、だれでも、しんじつの世界に出あう道が開かれます。山の高さにかぎりあり、海の深さにそこがあり、弥陀のおじひにはかぎりもないが、そこもない。まよいくるしむ、われらをば、たすけずばをくまいと命にかけた、ご本願がなむあみだぶつのお六字さまです。ナムアミダブ同じ世代に人として、とうとい命をめぐまれ、何かのごえんでない人は一人もありません。

一人でも多くの方々に、一日もはやく恵まれて、共に生かされているよろこびを身につけていただきたいと思い、ねがわずにおられませんか。光明無りょう、寿命無りょうと、じかんときにも、かぎりない如来さまの、光明の中にいだかれていますじじつが、知らされた時、あたたかいえんにむすばれていたね。

小学二年までしか行けなかったと書いてありました。

私も今は仏法さん友達も出来てたのしいです。先輩も仏の教えの仲間入りを出来た事、本当に喜んで下さいました。先輩の口ぐせは

過去は振り返らない

未来のことは分からない

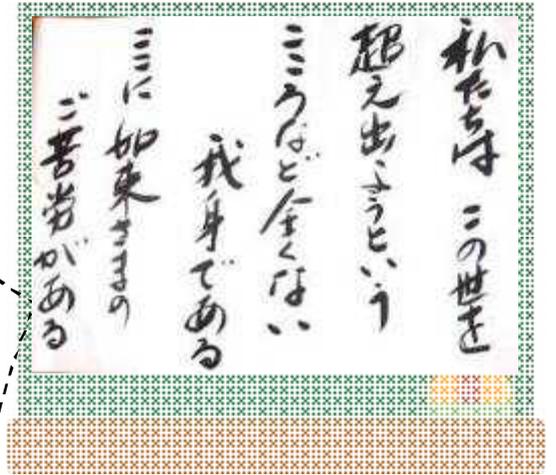
今ただ今を喜びなさい

と何時も云われます。

多くの人に支えられて、今の所、体もまあまあで参らせて貰えるのも如来さまのお陰様と感謝の気持ちを忘れずに、一日一日を大切に過ごさせて頂いております。

横山小夜子

山門掲示板



仏法において最も大切なものは菩提心です。仏法を求めるところであり、出家するということです。真宗においては生死（まよい）を出づるとかこの世を厭（いと）うということばを使います。煩惱によって悩み苦しみ、この穢れた娑婆を超えようとするところです。このところが仏法を求めさすのです。このところが無くただ仏法聴聞しても何も耳に入らず、教養とか知識のために聞いているだけです。

さて私たちの聴聞はどうなっているのでしょうか。煩惱にこき使われ、穢れたこの身と娑婆を超えようという意欲で聞いているでしょうか。私はしっかりと聴聞していますといても、やはりこのころの底ではこの身とこの娑婆に執着し、この世の幸せを祈っているのではないのでしょうか。善導大師は「出離の縁あることなし」と言い切っています。悲しいかな私たち凡夫にはこの身を厭い娑婆を出でたいという気持ちなど全く無いのです。（住職）

先輩の感動をたずねて

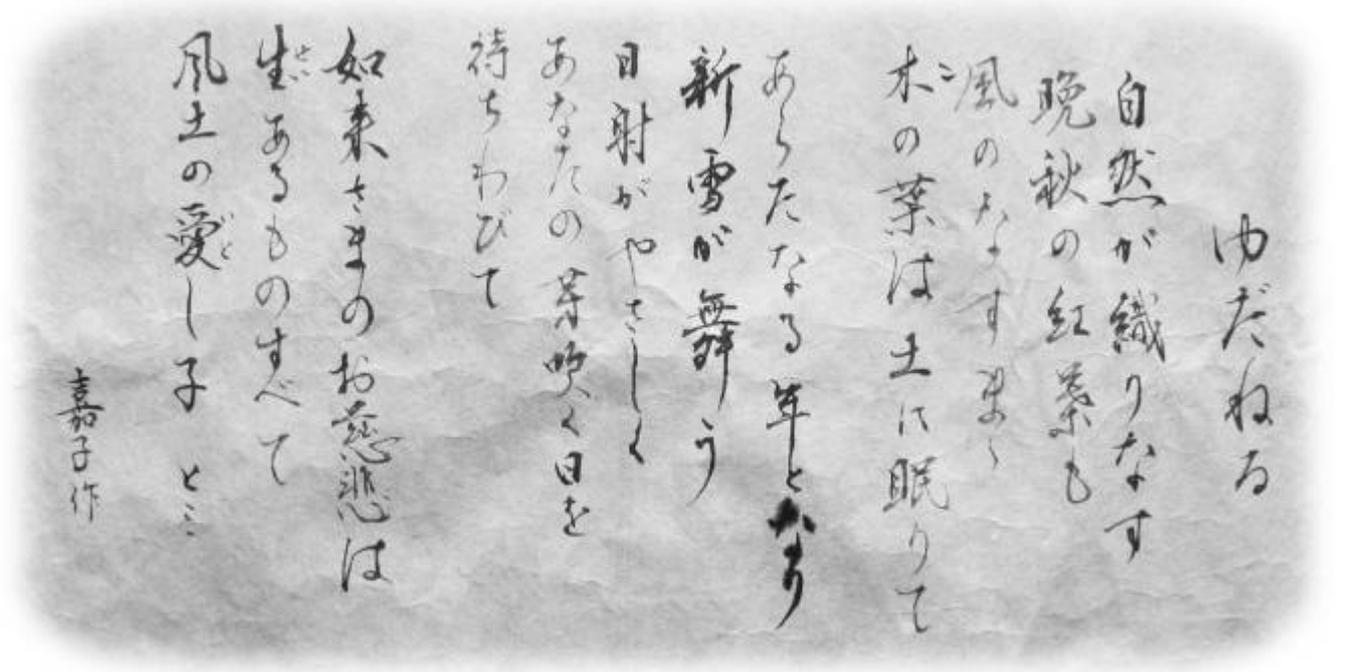
こんな人に出会ったことはありませんか？自分は余命いくばくもない病身なのに、どこかしら満足していて、周囲に感謝を表す人。自分の延命を望むのではなく、家族や周囲の幸せを願う人。ひと言で言えば、病床でなんまんたぶつと微笑んでいる人です。

まるで、仏さまの覺りに等しい（等覺）ですよ。そういう心が病床で起こったのは、それはひとえに仏さまのおちから（願成就）でした！この仏さまのおころに、願いに、私は喜んで全身をゆだねます！これが先輩の感動だと、僕は思います。

無数の先人方が仏さまです。無数の愛によって育てられていると感じることは、私個人の手柄や誇りが木っ端みじんに砕かれることです。今までの思い上がりや醜さが、あぶり出されるばかりです。にもかかわらず、これからもやっぱりお育てにあずかりたいという感動があるのです。個人的な愛執の底が抜けるような、死も超えちゃうような深い感動が。（編者）

じょうとうがくしょうだいねはん
成等覺証大涅槃
 ひっしめつどがんじょうじゅ
必至滅度願成就
 親鸞作『正信念仏偈』より

読み方 等覺を成り大涅槃を証する
 ことは、必至滅度の願成就なり。
 等覺 仏の覺りと等しいこと
 大涅槃 自分も全衆生もみな苦を
 超えること。滅度に同じ。
 必至滅度の願 必ず滅度に至らせ
 ようという願。弥陀の本願。
 成就 願いが今かかっていること。



喜和子作

図書紹介

『宇宙においでよ』
野口聡一著

講談社 2008年
税込1470円



宇宙飛行士・野口聡一さんが著した子供向けの本ですが、宇宙がぐっと身近に感じられて、とても楽しかったです。(宇宙までたった8分半!だとか)

なかでも船外活動の時、暗闇に浮かぶ地球の美しさと迫力について書かれたところは感動的で何回も読み返しました。「死と隣り合わせで、命の輝きに満ちているからこそ、地球は美しい」という言葉がとても印象的でした。本当は地上で暮らす私たちだって毎日死と隣り合わせなんだけど、死を実感できない分だけ、生きていることの素晴らしさがぼやけてしまっていることに改めて気付かされ、ドキツとしました。(美和子)

自称・理系人間の野口さんは、人間には興味がなく、地球を物体として観察したいと考えていたそうです。ところが宇宙へ出てみたら、美和子が先に書いたように、命のまぶしさにびっくりしたんです。そう感じた自分にも驚いたんです。そんな思わぬ転換(思いがひっくり返される経験)が、仏教の救いと一緒やなあと思うんです。地球は全く変わらないのに、見る眼が変わると全く新鮮に見える...まるで娑婆と浄土の関係だなあと感じました。(編者)

発行

真宗仏光寺派 専念山 **西雲寺**
住職 護城一寿
筆頭総代 鈴木春夫
編集責任者 護城一哉
〒910-3523 福井市武周町5-2
電話 0776-97-2138
メール kmgojo@mx3.fctv.ne.jp
ホームページ http://arukou.net/

次世代の方、分家された方に!

お手元に2部届いた時には、ぜひご活用下さい。

みなさんの声 大募集!

原稿や作品はもちろん、ご意見、ご感想など、どしどしお寄せ下さい。郵送でもメールでも構いません。お待ちしております。